

# 東京1区市民連合 準備会 会報 No.2

〒101-0051 千代田区神田神保町1-18-1 千石屋ビル 402号 Tel・Fax03-5577-7680

メールアドレス: [1kushimin@gmail.com](mailto:1kushimin@gmail.com)

## 第2回呼びかけ人会議 働き方「改革」、憲法問題の学習会開催へ ——「練馬・みんなで選挙」（ねりせん）の運動に学ぶ——

7月11日、神保町の事務所において、東京1区市民連合（仮称）準備会第2回呼びかけ人会議が開かれ、事務局を含め17人が参加しました。

会議はこの間の取り組みを振り返り、今後の運動のすすめ方について議論しました。合わせて、市民連合づくりで進んでいる練馬の取り組みについて、「ねりせん」の共同代表の一人・柏木美恵子さんにお越しいただき、話を聞きました。

### ■呼びかけ人28人に

この間、呼びかけ人を増やす取り組みを強め、この日までに28人（大学9、弁護士7、医師4、市民団体4、団体3、俳優1 ※うち女性8）となりました。アピールへの賛同人は120人に達しています。ご協力に改めてお礼申し上げます。

討論ではまず、今回の東京都議会選挙の得票結果について、慶応大学の西大さんから報告を受けました。千代田、新宿、港の3区の得票数は▼自民/45,443▼共産・民進計/46,988▼都民ファースト/106,943——となっています。

西大さんは「都民ファーストの10万という数字は、自民党批判の受け皿になったのではではないか。都民ファが国政に進出してくるのかどうか、その動きに注目する必要がある」と強調しました。都議選で千代田区の候補者としてたたかった

須賀和男さんも参加。「1ヵ月という短期間だったが、多くの人に支えられてたしかだった。個人としてもいい経験になった。これを今後の活動に活かしたい」と述べました。

### ■学習軸に運動進めよう

会議は今後の取り組みについて意見交換しました。安倍首相は来年の通常国会に改憲の発議をしたい、と表明し改憲問題が本格化しそうな勢いとなっています。私たちは憲法9条を守り、この



準備会アピールにある「安倍政権のもとで改憲を許さない」たたかいを強める必要があります。

また、「働き方改革」という名の過労死促進、残業代ゼロの攻撃も強まっています。これらの動きに対応できるよう、以下のような学習会を企画することを決めました。

### ●「働き方改革」の問題とたたかい

9月20日（水）18:30～新宿農協会館8階

講師／弁護士・棗一郎さん（労働弁護団幹事長）

### ●安倍改憲の危険性とたたかい

10月12日（木）18:30～エデュカス東京7階

講師／現在要請中

二つの学習会について、改めて連絡することになりますが、予定を組んでおいていただければ幸いです。（※注・二つともに資料代500円）

さらに会議は、①会の基本政策づくり②4野党との懇談会開催——が出されました。基本政策については、共同アピールに盛り込んだ4項目に「共謀罪廃止」を付け加えるべきだという意見が出されました。原発問題など課題はあるが、4項目を基本に考えていくことを確認しました。

4野党との懇談会も状況をみながら進めることにし、準備会の拡大について9月末を目途に呼びかけ人を30人以上、賛同者300人をめざして奮闘することになりました。

また、学習会とは別に日常活動の一環として、その時々々の政治問題などについて月に1回程度の宣伝行動を考えていくことにしました。

### ■練馬の取り組みに学ぶ

前回の会議で、市民連合の運動がすすんでいる練馬から報告をいただくということになり、それが実現しました。「練馬・みんな選挙」（ねりせん）の共同代表の一人、柏木美恵子さんにお話しをいただきました。

柏木さんは「ねりせん」が結成された経過、昨年東京10区における衆院補選のたたかひの経過、運動をすすめる上での留意点など、30分にわたって報告・説明しました。

◇=◇=◇

「ねりせん」は、東京9区と10区（豊島区と練馬区の一部）の選挙区で、野党共闘を擁立し勝利することを目的として2016年4月に結成されました。呼びかけ人・賛同人196名で構成、共同代表5名と事務局チーム17名でスタートしました。

結成前段で運動的には、戦争法反対を中心に区内の主要地点の練り歩き、パレード、署名活動な

どに取り組み、輪を広げました。その取り組みが「ねりせん」の結成をスムーズにしました。

結成後は政党との懇談、とりわけ予定候補者との話し合いに力を入れました。その最中に、小池百合子衆院議員が都知事選挙に出馬することになり、16年10月に東京10区の補選が行われることになりました。準備は整っておらず、率直に言って手探り状態から始まりました。

補選は、市民連合レベルの選挙を展開するうえで難しい面も浮上しました。政党と政党間の問題、市民と政党間の問題、市民のなかの意見の違いなど、その調整の難しさが浮き彫りになりました。

それでもなんとか「統一」を重視しながらすすめてきましたが、連合との折り合いがつかず、選挙戦終盤で応援部隊は揃ったにもかかわらず、街頭演説に候補者（民進党）本人が参加しないという事態になり、批判を買いました。

それでも「ねりせん」は野党統一のために諦めることなく活動を続けています。「アベやめろ」の声を現実のものとするためにも、根気強くすすめるつもりです。今回の選挙の教訓の一つは、市民の側が政党を越えるパワーをもつことだろうと考えています。

◇=◇=◇

以上が話しの概略ですが、この中で柏木さんは政党に対するいくつかの批判も行いましたが、ここでは敢えて割愛しました。制約された活動の中ですすめられている、練馬の経験から学ぶものは少なくありませんでした。

私たちの活動は緒についたばかりです。練馬の経験は、どこの地域でもあることだと思われまふ。加えて東京1区は大企業の本社機構が密集し、官庁街があり、国会があり、都庁が存在する地域です。それはある意味、他地域にはない「条件下」での活動となります。それゆえに、取り組みも複雑化することは容易に想像できます。

そのことを踏まえた運動づくりを進めたいものです。賛同人を増やし、パワーある運動を作りましよう。

（報告＝事務局・水久保文明）